

日本の本屋を考える

明治の座売りからインターネット書店へ

2021年 2月26日 (金)

19:00 ~ 20:30 (18:30開場)

日比谷図書文化館

地下1階 日比谷コンベンションホール (大ホール)

参加費 1000円

定員 60名 (事前申込順、定員に達し次第締切)

近年の書店の状況についてはさまざまに報道がなされ、日比谷カレッジ「これからの書店 図書館 出版社 取次」のシリーズでも多くの講師の方がそれぞれの立場でお話をしてくださいました。

本講座では「危機にある書店」の解決策をあれこれ議論するというよりも、そもそも日本において本屋とはどのような特徴をもち、私たちにとっていかなる場所であったのかに焦点を当てます。

明治初期の座売り書店から近代の書店、さらには戦後の書店のスタイルや配置の変化、インターネット書店やセレクトショップなどがどのような道筋の上にあるのかなど、図版をまじえながら、あらためて考えてみたいと思います。



柴野 京子 (上智大学文学部新聞学科准教授)

出版取次会社勤務ののち、2011年、東京大学大学院学際情報学府博士課程満期退学(社会情報学修士)。東京大学大学院人文社会系研究科特任助教を経て、2012年より現職。NPO法人本の学校、NPOブックスタート、デジタルアーカイブ学会理事。主著に『書棚と平台——出版流通というメディア』『書物の環境論』(いずれも弘文堂)、共編著に『公共図書館の冒険』(みすず書房)、『文化社会学の条件』(日本図書センター)ほか

今後の新型コロナウイルス感染拡大状況により、変更となる場合がございます。あらかじめご了承ください。

お申込み
 ホームページのお申込みフォーム
 電話(03-3502-3340)
 いずれかにて
 ①講座名
 ②お名前(よみがな)
 ③電話番号
 をご連絡ください。

小学生以下のお子様に参加される場合
 保護者の同伴が必要です。
 (同伴者の方にも参加費が必要です)

千代田区日比谷公園1-4 (日比谷公園内)
<https://www.library.chiyoda.tokyo.jp/hibiya/>

都営地下鉄 ●三田線「内幸町駅」
 A7出口/徒歩3分
 東京メロ ●丸ノ内線 ●日比谷線「霞ヶ関駅」
 B2出口/徒歩3分
 東京メロ ●千代田線「霞ヶ関駅」
 C4出口/徒歩3分
 JR「新橋駅」
 日比谷口(SL広場)/徒歩10分



新型コロナウイルス感染拡大防止のため、下記の対策を実施していますのでご協力ください。

- ・ご入館時には手指の消毒、職員による検温、入館票のご記入(「貸出券番号」または「名前と電話番号」)をお願いします。
- ・館内では必ずマスクをご着用ください。
- ・会場定員は207名ですが、ソーシャルディスタンス確保のため定員を少なく設定し、募集を行います。